スイッチバックの駅が地域の拠り所に

新潟県上越市　NPO法人中郷区まちづくり振興会

新潟県の直江津駅と妙高高原駅を結ぶ「えちごトキめき鉄道はねうまライン」は、明治時代開業の旧信越本線から続く歴史ある路線。上越妙高駅から乗車すると、雄大な妙高山を望みながら新緑の中を徐々に勾配を上げていく。

二本木駅が近づき列車が停車したかと思うと、今度は折り返し逆方向に進みホームに到着する。かつてSLが急勾配から発進ができなかったため、平地に駅を設けて急勾配を克服した「スイッチバック」の構造となっており、二本木駅はスイッチバックが現存する全国でも数少ない駅として知られる。

二本木駅には多くの見どころがあり、明治時代の駅舎をはじめ、木製の雪囲い、煉瓦造りのランプ小屋など7件の建造物が登録有形文化財に指定されている。また、二本木駅に隣接して日本曹達（ソーダ）の工場があり、従業員の乗降や貨物列車で賑わった歴史もある。駅構内の地下道にはこうした二本木駅の歴史を丁寧に解説したパネルが展示されており、往時の賑わいに思いを馳せる。

この日、えちごトキめき鉄道の観光列車「えちごトキめきリゾート雪月花」が二本木駅にやってくる。赤く美しい車体に大きな展望窓を備え、地元の旬の食材を使った上質な食事やアテンダントのおもてなしを受けながら、新潟県上越地方の海と山の景色を堪能できる人気の観光列車。土日祝日を中心に運行される。

午前の便に合わせ、NPO法人中郷区まちづくり振興会と地元住民・有志の皆さんはほぼ毎回ホームに立っておもてなし活動をしている。ゆっくりと入線する雪月花に向けて、「ようこそ！スイッチバック二本木駅」と書かれた横断幕を広げ、笑顔で手を振りながらお出迎え。ホームでは、「辛味子」などの地場産品や記念グッズの販売を行い、10分ほどの停車時間に次々にお買い上げ頂く。やがて出発する雪月花の車内から手を振るお客様と、ホームからお見送りするおもてなしのメンバー。二本木駅の出会いが旅の新たな記憶に刻まれたこと

と思う。

こうした二本木駅の管理を担っているのが、NPO法人中郷区まちづくり振興会(以下、振興会)。えちごトキめき鉄道株式会社(以下、トキ鉄)から業務委託を受け入れ、駅業務とともに喫茶「さとまるーむ」を365日の通年無休で行っている。振興会の代表理事を務める岡田龍一さんに話を伺う。

二本木駅は、2015年の北陸新幹線長野～金沢間の延伸開業に伴いJRからトキ鉄に移管されたことを契機に、振興会は旧待合室のスペースの借用をトキ鉄に申し入れ、上越市の補助金などを活用して喫茶スペースにリフォーム。「地域の方が集まる場所を作りたい思いで喫茶をはじめた。当初は月2回開店したところ好評だった」と岡田さんは振り返る。JRからトキ鉄に代わり、地域と鉄道会社との協力関係が密接になったことにより、二本木駅活性化の取り組みが前に進んだという。

2019年に二本木駅が無人化されることになり、トキ鉄から振興会に駅業務委託の話が持ち込まれた。駅舎やホームの清掃をはじめ、乗客への対応、記念入場券の販売、グッズ販売などの業務に加え、喫茶「さとまるーむ」の運営も含めて業務委託を受けることになった。

以降、駅とともに喫茶「さとまるーむ」も年中無休で電気が灯る駅となった。岡田さんは「無人駅で人の気配がなくなると寂しい。でも、二本木駅に来れば灯りがあって、人がいて、話し声がある。そういう駅にしてよかったと心から思う」と話す。

振興会は、旧中郷村が上越市に合併された2005年に発足し2015年にNPO法人化。「なかごう夏まつり」「雪んこ子まつり」などの地域活性化イベントの開催や、「エコウォーク」による環境美化活動、通学通園バスの運行など、旧中郷村地域にまたがる課題に幅広く取り組んできた。

岡田さんは「何もやらなければ地域が廃れてしまう危機感が強

かった」という。中郷区では、地域の住民、鉄道会社、企業、学校、行政・・・みんなが顔を合わせて、協力し合える土壌があることを、中郷区のコミュニティの一番のポイントにあげる。

振興会では移動手段に困っている人のための公共交通が必要と、この4月からコミュニティバス「さくら号」の運行をはじめたところだ。岡田さんは「人が流出しないように、地域の困りごとに対応して住み続けたい地域にすることが大事」と前を見据える。

次の直江津方面の列車まであと1時間。喫茶「さとまる〜む」で淹れたてのコーヒーを頂きながら列車を待つ。

この日担当するスタッフの豊岡さんが常連客と談笑している。毎週末に訪れてピザを食べるおじいさんもいれば、中郷区外から足を運ぶ人もいる。「誰かと何気ない話を交わし、定期的に顔を合わせる場所があることが、地域の安心にもつながっていると思う」と豊岡さん。

スタッフは主に、地元住民の陸川さんと豊岡さんの2人が交代で担う。冬場には3メートル近い雪が積もることもあるが、それでもさとまる〜むは年中無休で営業を続けている。二本木駅の近くで育った豊岡さんは「鉄道の音が子守歌みたいなものだった」と笑う。

やがて列車の時間が近づき、駅のホームに向かう。列車はスイッチバックの線路をたどり、いったん長野方面へ戻り、再び直江津方面へと進み始めた。行きつ戻りつ二本木駅が徐々に遠ざかっていく。中郷区まちづくり振興会とえちごトキめき鉄道、そして地元の方々が協力しながら続けてきた二本木駅のおもてなしの姿は、この地を訪れる人の心の灯りになっていると思う。

【連絡先】NPO法人中郷区まちづくり振興会
新潟県上越市中郷区二本木 1959-4
中郷コミュニティプラザ内
TEL：0255-74-2455